

InstallShield 12 Express Edition

2006 年 9 月 6 日

[はじめに](#) | [システム要件](#) | [参考情報](#) | [新機能](#) | [バグ修正](#) | [既知の問題](#)

はじめに

InstallShield 12 Express Edition では、マイクロソフトの新しい Windows Vista オペレーティング システムで提供される重要なテクノロジーがサポートされています。これらのサポートにより、ソフトウェア作成者の方々は Vista 対応のための準備を万端に整えることができます。以下は今回の主な サポートです。

- Windows Vista システムのターゲット機能
- ユーザー アカウント コントロールのサポート
- デジタル署名の強化
- 再起動マネージャ インフラストラクチャによる再起動回数の最小化

InstallShield 12 Express Edition は、Microsoft Windows Vista ベータ 2 英語版 をサポートするようにデザインされています。このリリース ノートで言及されている Windows Vista はすべて、現時点で入手可能なビルドのサポートに対して適用されます。Microsoft Windows Vista オペレーティング システムの最終ビルドがリリースされた際、InstallShield 12 はアップデートを適用して最新ビルドを問題なくサポートします。

今回のリリースでは、InstallShield Express Edition の品質が大幅に改善され、50 を超える問題が InstallShield 12 Express Edition では解決されています。

また、InstallShield 12 Express Edition では、Windows Installer 4、Smartphone のための Windows Mobile 5.0 などの最新テクノロジーもサポートされています。

リリース ノートのアップデートを含む InstallShield 12 Express Edition についての最新情報は、ナレッジベース記事 [「Q112212」](#) をご覧ください。

[トップに戻る](#)

システム要件

InstallShield を実行するシステムにおける要件

プロセッサ

Pentium III クラスの PC (500 MHz 以上を推奨)

RAM



256 MB の RAM (512 MB 推奨)

ハードディスク

500 MB 空き領域

ディスプレイ

1024 x 768 (XGA) 以上の解像度

オペレーティング システム

Windows 2000 SP3 以降、Windows XP、または Windows Server 2003

ブラウザ

Microsoft Internet Explorer 5.01 (IE 5.5 以降を推奨)

権限

システムの管理者権限

マウス

Microsoft IntelliMouse、またはその他の互換性のあるポインティング デバイス

ターゲット システム (デスクトップ コンピュータ) における要件

各インストーラ エンジンの最小ターゲット システム要件は、以下のとおりです。

インストーラ エンジン オペレーティング システムおよび他の要件

Windows Installer 1.1	Windows 95 以降
Windows Installer 1.2	Windows 95 以降
Windows Installer 2.0	Windows 95 以降
Windows Installer 3.0	Windows 2000 SP3 以降、Windows Server 2003
Windows Installer 3.1	Windows 2000 SP3 以降、Windows Server 2003
Windows Installer 4.0 (再配布可能ファイルと しては提供されていま せん。)	Windows Vista
Compact	Windows 95 以降

Internet Explorer 3.02 以降

ターゲット システム (モバイル デバイス) における要件

InstallShield では、Microsoft ActiveSync や他のデスクトップ コンポーネントを使用しない、デバイスへ直接行うインストールがサポートされています。

InstallShield では、モバイル デバイス インストールをデスクトップ インストールへ追加することもできます。

Windows Mobile デバイスの要件

InstallShield では、多数の Windows Mobile プラットフォームおよびプロセッサがサポートされています。以下は、Windows Mobile プラットフォームの一覧です:

- Windows Mobile 5.0 for Pocket PC
- Windows Mobile 5.0 for Smartphone
- Windows CE .NET 5.0
- Windows CE .NET 4.x
- Pocket PC 2003
- Pocket PC 2002
- Pocket PC
- Palm-size PC 2.11
- Palm-size PC 2.01
- Handheld PC 2000
- Handheld PC Pro
- Handheld PC 2.0
- Smartphone 2003
- Smartphone 2002

この一覧にないプラットフォームも、InstallShield でサポートされていますが、条件設定ができないという点で、上記のプラットフォームと異なります。

InstallShield では、次の Windows Mobile プロセッサがサポートされています。

- ARM720
- ARM820
- ARM920
- Common Executable Format (CEF)
- Hitachi SH3
- Hitachi SH3E
- Hitachi SH4
- i486
- i586
- i686
- MIPS R2000
- MIPS R3000
- MIPS R4000

- SHx SH3
- SHx SH4
- StrongARM-XScale

Palm OS デバイスの要件

InstallShield では、Palm OS 3.5 以降がサポートされています。

Windows Mobile デバイス インストールのデスクトップ要件

Windows Mobile デバイスにアプリケーションをインストールするために使用されるデスクトップ コンピュータの要件は以下のとおりです：

- Microsoft ActiveSync 3.x 以降 (Windows Mobile 5.x デバイスには ActiveSync 4.x が必要)
- 管理者特権

Palm OS デバイス インストールのデスクトップ要件

Palm HotSync は、Palm OS デバイスにアプリケーションをインストールするために使用されるデスクトップ コンピュータに必要です。

[トップに戻る](#)

参考情報

アップグレードの詳細

InstallShield 12 Express Edition を使って、以前のバージョンで作成されたプロジェクトを開くと、プロジェクトを新しいバージョンに変換しますかという質問が InstallShield 12 Express Edition のメッセージ ボックスで表示されます。[変換する] を選択すると、変換が行われる前にプロジェクトのバックアップ コピーが .763 というファイル拡張子が付加されて作成されます。以前のバージョンの InstallShield Express Edition でこのプロジェクトを再度開く場合、元のプロジェクトのファイル名から .763 を取り除いてください。InstallShield 12 Express Edition のプロジェクトは、以前のバージョンの InstallShield Express Edition で開くことができませんのでご注意ください。

Visual Studio の統合

Microsoft Visual Studio の統合は 1 回につき Express Edition の 1 バージョンとのみ可能です。システムで最後にインストールまたは修復された InstallShield のバージョンが Visual Studio の統合に使用されます。

Update Service の変更点

本リリースより、Update Service Starter Edition は InstallShield に含まれていません。ま

た InstallShield で作成する新しいプロジェクトの Update Service はデフォルトで [無効] となっています。

Update Service には様々なオプションがあり、完全ソリューションとして本製品と共に購入することもできますし、またはカスタマイズ ソリューションとして個別に購入することもできます。詳しい情報は、[マクロヴィジョン Web サイト](#)を参照してください。

[トップに戻る](#)

新しい機能

Windows Vista システムをターゲットにする機能

InstallShield では、インストールが Windows Vista をターゲットにするように指定することができます。また、機能およびカスタム アクションに Windows Vista に関連する条件をビルドすることもできます。

ユーザー アカウント コントロールのサポート

InstallShield では、Microsoft が Windows Vista に追加したユーザー アカウント コントロール機能がサポートされています。[一般情報] ビューに新しく追加された “管理者特権” 設定を使って、インストールが管理者特権を必要とするかどうかをプロジェクト全体に対して指定することができます。また、[リリースのビルド] ビューの “必要実行レベル” 設定では、Setup.exe ファイルが Windows Vista プラットフォーム上でインストール (セットアップランチャ、すべてのセットアップ前提条件、および .msi ファイル) を実行するときに必要な最小特権レベルを指定できます。

デジタル署名の強化

インストールにデジタル署名情報を指定するユーザーのために、MsiDigitalCertificate テーブルと MsiPatchCertificate テーブルに必要な情報が自動的に追加されます。MsiPatchCertificate テーブルには、UAC (ユーザー アカウント コントロール) パッチを有効にするために必要な情報が含まれています。これにより、管理者以外のユーザーが適用することができる QuickPatch を作成することができます。

また、プロジェクト アシスタントの [インストールのビルド] ページで、インストールにデジタル署名情報を指定できるようになりました。[リリースのビルド] ビューで、すべてのメディア タイプにデジタル署名情報を指定することもできるようになりました。以前は、WebDeployment メディア タイプのみにデジタル署名情報を指定することができました。

再起動マネージャ インフラストラクチャによる再起動回数の最小化をサポート

インストール終了後のシステム再起動は、エンドユーザーにとって不都合なものです。Windows Vista 品質向上プログラムの要件の 1 つに、エンドユーザーがインストール完了後自動的にアプリケーションを閉じて再起動を行うことができるオプションを含まなくてはならないという項目があります。

この品質ガイドラインをサポートするため、すべて Express プロジェクトで [使用中のファイル (再起動マネージャ)] ダイアログが提供されています。インストール中に更新が必要なファイル (複数可) が他のアプリケーションによって使用中の場合、インストールでこのダイアログが表示されます。ダイアログには、エンドユーザーが選択できる次の 2 つのオプションが含まれます。

- エンドユーザーは選択で、インストールの完了後、自動的にファイルを使用中のアプリケーションを閉じて、再起動することができます。
- エンドユーザーは、アプリケーションを閉じない選択ができる。インストールの終わりで再起動が必要。

プロジェクト全体における Windows Installer 4.0 ログ ファイルのサポート

InstallShield では、Windows Installer 4.0 が実装される時、インストールのログ記録を行うかどうかをプロジェクト全体に指定することができます。このため、コマンドラインを使用したり、レジストリを使ってログ パラメータの設定したりする必要がありません。また、ログ記録されるメッセージの種類をカスタマイズすることもできます。

ログ記録を有効にするには、[一般情報] ビューの新しい “MSI ログの作成” 設定を使用します。この設定の [参照(...)] ボタンをクリックすると、[Windows Installer 4 のログ オプション] ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスで、ログ記録を行うかどうか指定します。また、ログ記録されるメッセージの種類をカスタマイズするとき、このダイアログ ボックスで、デフォルトのログ パラメータをオーバーライドします。

ログ記録を有効にすると、Windows Installer 4.0 によりログ ファイルが製品のインストール中に作成され、MsiLogFileLocation プロパティにログ ファイルのパスが書き込まれます。また、SetupCompleteSuccess ダイアログ、SetupCompleteError ダイアログおよび SetupInterrupted ダイアログに [Windows Installer ログの表示] チェックボックスが追加されています。エンドユーザーがこのチェック ボックスを選択してから [終了] をクリックすると、テキスト ファイル ビューアまたはエディタでログ ファイルが開きます。

複数言語ユーザー インターフェイス (MUI) のサポート

Windows Installer 4.0 によって実行される複数言語アプリケーション用のインストールを作成するとき、InstallShield を使って Windows 複数言語ユーザー インターフェイス (MUI) のサポートを含むショートカットを作成することができます。[ショートカット] ビューでは、選択されたショートカットに対して、次の 4 つの新しい設定が使用できます。

- 表示リソース DLL
- 表示リソース ID
- 説明リソース DLL
- 説明リソース ID

これらの新しい設定は、Windows Installer 4.0 の Shortcut テーブルにある新しい 4 つの列に対応しています。

Smartphone 用 Windows Mobile 5.0 のサポートとモバイル デバイスのサポートのその他の強化

InstallShield で、Smartphone デバイス用 Windows Mobile 5.0 をインストールでターゲットできるようになりました。以前、インストールに Smartphone デバイス用 Windows Mobile 5.0 のサポートを含めるためには、Smartphone 2003 オプションを選択する必要がありました。

また、Windows Mobile ウィザードを使って、すべての Windows Mobile デバイス インストールに対して XML 構成ファイルを指定できるようになりました。以前は、Smartphone デバイス インストールにのみ XML 構成ファイルを含めることができました。

この機能により、IOC-000050347 が解決されます。詳しくは、[「Q112145」](#) をご覧ください。

COM 抽出と依存関係スキャナにおけるレジストリおよびファイルのフィルタ機能の強化

InstallShield と共にインストールされている新しい Filters.xml を編集して、COM サーバーから必要のない COM データが抽出されるのを防ぐことができます。この Filters.xml ファイルを編集することにより、COM 抽出から除外されるレジストリ キーの一覧をカスタマイズすることができます。

Filters.xml ファイルは今回より、スタティック依存関係スキャナ、ダイナミック依存関係スキャナ、Visual Basic 依存関係スキャナによって除外または選択されるファイルをリストすることもできます。以前は、2 つの異なるファイル (Userscan.ini と Iswiscan.ini) が除外および選択の対象になるファイルをリストするために使用されていました。

この機能により、次の問題が解決されました: IOC-000040829。

Trialware のオンライン アクティベーションの認証プロキシ

InstallShield を使って作成される "Try and Buy/プロダクト アクティベーション" タイプの Trialware について、オンライン アクティベーションが強化され、インターネットのアクセス中にプロキシ サーバーを通してオンライン アクティベーションができる機能をエンドユーザーに提供できるようになりました。これにより、認証プロキシ サーバーを通した InstallShield のオンライン アクティベーションも今回からできるようになりました。また、InstallShield アクティベーション サービスのアカウントがあると、InstallShield 12 を使用して "Try and Buy/プロダクト アクティベーション" タイプの Trialware を作成したとき、エンドユーザーは認証プロキシ サーバーを通して Trialware をアクティベートすることもできます。

強化されたスタート ページ

スタート ページで表示される最近開いたプロジェクトの一覧に、プロジェクトの種類を表示する列が挿入されました。また、一覧に表示されるプロジェクトの最大数が、4 つから 8 つに増えました。

この機能により、次の問題が解決されました: IOA-000008157。

Visual Studio 2005 サポート

Visual Studio 2005 を完全サポートしている InstallShield は、.NET ソフトウェア開発者のための究極のセットアップ ソリューションです。ユーザーの方は、製品の作成に使用している Visual Studio インターフェイスをそのまま使用してインストールを作成することができます。このため、.NET インストールの作成をより効率的に行うことができます。InstallShield のすべてのビューは、Visual Studio .NET ソリューション エクスプローラ内に個別のウィンドウで表示されるため、スクロールする必要がありません。また、並列表示 オプションも用意されています。

Pocket PC Windows Mobile 5.0 および Windows CE .NET 5.0 のサポート

InstallShield は、Pocket PC Windows Mobile 5.0 および Windows CE .NET 5.0 モバイル デバイス用のターゲット インストールを指定できるようになりました。

新しい .NET Compact Framework 2.0 とその他のモバイル デバイス 再配布可能ファイル

モバイル デバイス インストール用に、次のような新しい再配布可能ファイルが提供されました: .NET Compact Framework 2.0、SQL Mobile 2005、SQL Client 2.0 および SQL Mobile 2005 Replication。また、Smartphone 2002 および Smartphone 2003 用のインストールでも、再配布可能ファイルがサポートされています。

モバイル デバイス用デジタル署名の拡張

すべてのモバイル デバイス プラットフォームで、デジタル署名がサポートされています。以前、Smartphone 2002 および Smartphone 2003 以外では、デジタル署名がサポートされていませんでした。

.NET Framework 2.0 と Visual J# 2.0 のサポート

InstallShield では .NET Framework 2.0 と Visual J# 2.0 をインストールするオプションがサポートされています。これらの再配布可能ファイルのバージョン 1.0 と 1.1 もまだサポートされています。

Microsoft ビルド エンジン (MSBuild) サポート

InstallShield では、.NET Framework 2.0 に含まれている Microsoft ビルド エンジン (MSBuild) がサポートされています。MSBuild のサポートでは、Visual Studio がインストールされていないビルド ラボ環境で InstallShield プロジェクトと共に Visual Studio ソリューションをビルドすることができます。MSBuild は、Visual Studio へのビルド依存を取り除くために設計された拡張ビルド フレームワークです。

MSBuild と互換性のある XML フォーマット プロジェクト ファイル

InstallShield の Visual Studio との統合では今回から、MSBuild と互換性のある XML フォーマット プロジェクト ファイル (.isproj) が使用されています。これにより、MSBuild は、InstallShield プロジェクトを含む Visual Studio ソリューションをシームレスにビルドするこ

とができます。

デベロッパ インストール マニフェスト (DIM) の参照

InstallShield は、新しい [InstallShield Collaboration](#) モジュールを使って作成されたデベロッパ インストール マニフェスト (DIM) を参照して、開発者によって定義されたインストール要件を自動的にインストール プロジェクトに組み込みます。InstallShield Collaboration は、マクロヴィジョンより別製品として提供されています。InstallShield Collaboration は、InstallShield の Premier Edition と Professional Edition にも含まれています。

セットアップ前提条件

インストールが実行される前に、前提条件アプリケーションやシステム コンポーネントの存在を確認してインストールすることはとても大切です。VSIP Interop Assembly、Microsoft SQL Server 2005 Express、Internet Explorer 6.0、Jet 4.0 などあらかじめ構成されている当社のセットアップ前提条件より選ぶことができます。必要に応じ選択で、セットアップ前提条件をインストールで配布したり、Web からダウンロードしたりすることもできます。

Trialware 有効期限日

作成した Trialware に有効期限日を設定して、一定の日付が過ぎた後、製品の評価およびアクティベーションができないようにすることができます。有効期限日は、通常、製品のベータ バージョンに使用されます。たとえば、この有効期限日をベータトライアル期間の最終日に設定するとします。ベータトライアル期間が終了すると、エンドユーザーは、追加のトライアル日数または回数が残っていても、製品の Trialware バージョンを評価したりアクティベートすることができなくなります。

新しく提供されたマージ モジュール

InstallShield 12 には、Microsoft Rich Textbox Control 6.0 Merge Module が含まれています。

印刷可能な .pdf ファイル資料

InstallShield の詳しい資料が現在、.pdf ファイルで配布されています。.pdf ファイルを表示するには、Adobe Reader が必要です。Adobe Reader は、<http://www.adobe.com> から無料でダウンロードすることができます。

[トップに戻る](#)

バグ修正

1-1043L6

スタート ページで最近開いたプロジェクトの一覧は今回より、プロジェクトを開いた時点、または作成した時点で更新されます。以前は、更新された最近開いたプロジェクトの一

覧を見るとき、InstallShield を一度閉じてから再度開く必要がありました。

1-10Z6DL

[機能] ビューの “条件” 設定で表示されるヘルプ ペインの説明が、この設定の動作をより忠実に反映するようになりました: 機能は、その OS 条件が 1 つでも True で、且つ他の条件もすべて True のときインストールされます。以前、このヘルプ ペインでは、機能は条件が 1 つでも満たされるとインストールされると記述されていました。

1-11GEQX

アドバタイズ ショートカット ターゲットまたは IIS アプリケーション拡張子マッピングを参照するとき、プロジェクトに含まれているすべてのファイルを参照できるようになりました。以前、一部のファイルが 参照ダイアログ ボックスからフィルタされていました。

1-16TY1H

プロジェクト アシスタントの [アプリケーション ファイル] ページで INSTALLDIR サブフォルダの [ファイル一覧の更新] コンテキスト コマンドを選択すると、INSTALLDIR サブフォルダが削除されていた問題は修正されました。

1-190X8P

InstallShield が Visual Studio 内から実行されているときに、[ファイル] ビュー内にあるファイルに対して [ビルド時に依存関係をスキャン] コマンドが選択されたとき、Visual Studio 2005 がクラッシュしていましたが、この問題は今回修正されました。以前のバージョンでは、Visual Studio がある状況下でクラッシュすることがありました。

1-1B1ISL

[インターネット インフォメーション サービス] ビューにある [ディレクトリ セキュリティ] タブが一部修正され、より分かりやすく、使い勝手が向上しました。上部のチェック ボックスが、今回より、[このリソースへのアクセスに必要なユーザー名/パスワード] から [匿名アクセスを有効にする] に名前が変わりました。また、[IIS によるパスワードの管理を許可する] チェック ボックスは、今回より、[パスワード] ボックスの上に表示されています。

1-CSE89

“製品バージョン” 設定で無効なバージョン番号を入力したときに表示されるエラー メッセージに、バージョンには数字のみを使用してくださいというメッセージが追加されました。

1-DK3LA

ビルド コード -7016 は今回より、ビルド警告になりました。以前、このコードはビルド エラーでした。このビルド警告は、Windows Mobile デバイスのサポートを含むリリースをビルドしたとき、.ini ファイルの CabFiles キーが長すぎるときに発生します。Microsoft ActiveSync の一部のバージョンでは、長い CabFiles キーはサポートされていません。

1-OG8KX

COM+ アプリケーションのインストール先を変更する機能が、[コンポーネント サービス] ビューの COM+ アプリケーションの [インストール] タブに追加されました。

1-SKPSY

Compact インストールの終わりに起動される実行可能ファイルの現在の作業ディレクトリが、今回より、実行可能ファイルがインストールされたディレクトリに設定されます。以前、Setup.exe ファイルが保存されているディレクトリが設定されていました。

1-UZ3ZD

Update Service ビューにある“会社ロゴ”設定のヘルプ ウィンドウでは今回より、Update Service ウィザードのカスタム グラフィックの寸法が正しく表示されます。以前、高さと幅の寸法が逆になっていました。

1-XU1DT

InstallShield を Visual Studio 内から使用しているときも、今回より、実行可能ファイル以外のファイルのショートカットを正しく作成できます。以前は、ショートカットを追加しようとしたとき、エラー メッセージが表示されました。

1-ZUQGE

Pocket PC 2003 をターゲットするモバイル デバイス パッケージを Pocket PC 2003 Second Edition デバイスにインストールしたとき警告が発生していましたが、この問題は解決されました。以前、インストールが完了した後、パッケージが Second Edition と互換性がない可能性があるという警告が表示されていました。

1-ZVH21

[ファイル] ビューで、フォルダを右クリックし、[ダイナミック ファイル リンク] をクリックして、ダイナミック ファイル リンクを追加したとき、ダイナミック ファイル リンクが追加された後も、ダイナミック ファイル リンクを含むフォルダは選択された状態に保たれます。以前、ある条件でダイナミック ファイル リンクを追加された後、異なるフォルダが選択されていました。

IOA-000023865

InstallShield プロジェクトを Visual Studio 内からビルドしたときに、プロジェクトに 1 つ以上のセットアップ前提条件が含まれていると、ビルド エラー -7068 が発生していた問題は、今回解決されました。

IOB-000003504

COM+ パスワードは今回より、詳細 Windows Installer ログ ファイルで表示されません。

アスタリスクがパスワードを隠すために使用されます。

IOB-000047916

[レジストリ] ビューでサブキーを含むレジストリ キーにアクセス許可を追加したとき、例外エラーが発生していた問題は今回解決されました。

IOC-000005742、IOC-000045070

インストールが MSXML 3.0 SP7 を含むように更新されました。以前、古いバージョンの MSXML 3.0 が配布されていました。

IOC-000005899

ヘルプ リンクの 1 つ (レジストリ情報に変数データ型を入力するにはどうすればよいですか?) は、今回より、Compact プロジェクトのプロジェクト アシスタントの [アプリケーション レジストリ] ページで表示されません。これは、このリンクが Express プロジェクト タイプにのみ適用するためです。

IOC-000034768

[コンポーネント サービス] ビューで、性能が一部大幅に向上しました。今回のリリースでは、大きいサイズの COM+ アプリケーションをほぼ 15 分でプロジェクトにインポートすることができます。以前は、この同じ COM+ アプリケーションをインポートするのに 18 時間以上かかっていたました。

IOC-000038028

MDAC 2.6、2.7 および 2.8 マージ モジュールが Windows Vista と動作するように更新されました。

IOC-000038094

重複文字列 ID がある文字列テーブル ファイルをインポートしようとしたときに、関連付けられた文字列値が異なると、InstallShield は相違の問題をどのように解決するか指定するようにプロンプトします。文字列値が同じであるとき、InstallShield は文字列テーブルのエントリを適切にインポートします。以前、重複文字列 ID がある文字列テーブル ファイルをインポートすると、“コード ページがシステムにインストールされている必要があります” という正しくないメッセージが表示されていました。また、文字列テーブルのエントリも正しくインポートされませんでした。

IOC-000040915

[インターネット インフォメーション サービス] ビューで、“親” 仮想ディレクトリ内から “子” 仮想ディレクトリを作成できるようになりました。以前、これは、ディレクトリの表示名に円記号を追加したときのみ可能でした。

IOC-000042302

今回より、[コンポーネント サービス] ビューで COM+ アプリケーションのチェック ボックスをクリアすると、COM+ アプリケーション (そのコンポーネントおよび ISCom* テーブルの中の対応するすべての情報を含む) は、プロジェクトから完全に削除されます。

IOC-000042627

エンドユーザーがセットアップ前提条件のインストール中に [キャンセル] をクリックすると、前提条件のインストールが完了した後にインストールをキャンセルするかどうかをたずねるメッセージ ボックスが表示されます。エンド ユーザーが [はい] をクリックすると、メッセージ ボックスが閉じ、[セットアップ前提条件] ダイアログの [キャンセル] ボタンが無効になります。以前、同じシナリオで、この [キャンセル] ボタンは無効にならず、エンドユーザーが [キャンセル] をクリックし続けると、同じキャンセルの確認メッセージが再度表示されていました。

IOC-000043770

エンドユーザーが以前のバージョンの製品を新しいバージョンの製品に上書きインストールしようとしたときに表示されるメッセージに誤字がありました。修正されました。

IOC-000043936

IIS 構成を含む DIM を参照するプロジェクトをビルドしたときに ビルド エラー -9029 が発生していた問題は今回修正されました。

IOC-000044129

マージ モジュールをローカル マシンではなくネットワークに保存して、[オプション] ダイアログ ボックスの [マージ モジュール] タブでネットワーク パスを指定したときに、これらのマージ モジュールがインストール済みであると認識されなかった問題は今回解決されました。以前、InstallShield はネットワーク マージ モジュールを検出しませんでした。

IOC-000044259

累積 Quickpack は今回から、以前の QuickPatch でアップグレードされたファイルをアップグレードします。

IOC-000044310、IOC-000046696

[インターネット インフォメーション サービス] ビューの Web サイトの [Web サイト] タブにある "TCP ポート" 設定と "サイト番号" 設定で、プロパティ、テキスト置換、および他の種類の文字列を入力することができるようになりました。以前、これらの設定には、数値のみ入力可能でした。

IOC-000045004

RegSpyUI.exe COM 抽出ツールで “Multiple” という語に誤植がありました（英語版のみ適用）。

IOC-000045142

Windows Mobile インストールは、今回より、修復とアップグレードで最新のモバイル インストールを自動的に起動します。以前、ActiveSync [プログラムの追加と削除] アプリケーションは起動されましたが、最新のインストールは自動的に起動されませんでした。今回よりユーザーは、モバイル アプリケーションを修復/アップグレードするオプションが自動的に与えられます。

IOC-000045150

Windows Mobile ウィザードで [既存のモバイル デバイス キャビネット] オプションを選択すると、ウィザードで追加されたすべての .cab ファイルが自動的にターゲット マシンにインストールされます。以前、.cab ファイルは 1 つだけ自動的にインストールされていました。

IOC-000045236

アドバタイズ ショートカットにカスタム アクションを指定する手続きが正しく動作するようになりました。ビルド警告 -7105 は発生しません。また今回より、目的のカスタム アイコンが、ターゲット マシンにインストールされた際、ショートカットと共に表示されます。以前、Windows アイコンがカスタム アイコンの代わりに使用されることがありました。また、InstallShield の一部の初期バージョンでは、ビルド時に警告 -7105がユーザーに返されていました。

IOC-000045278

MsiFileHash テーブルのエントリは今回より、ダイナミック ファイル リンクに正しく生成されます。

IOC-000045281

IIS の caCreateVRoots カスタム アクションと caRemoveVRoots カスタム アクションは今回より、次の適切な条件で構成されます: caCreateVRoots に REMOVE<>”ALL” 条件があり、caRemoveVRoots にインストールされた条件があること。両方のアクションは、機能の選択が変更されたことを考慮して、メンテナンス中に実行する必要があります。以前、これらの条件はカスタム アクションには構成されませんでした。このため、進捗状況バーでこれらのカスタム アクションが表示されていました。

IOC-000045301

Windows Installer 3.1 v1 は今回より、v2 を必要とするターゲット システムにインストールされません。プラットフォーム バリエーションまたは再配布可能ファイルの取得に関する詳細については、Microsoft ナレッジ ベース記事 [\[898715\]](#) を参照してください。

IOC-000045787

今回より、Windows Mobile ウィザードの [デバイス ファイル] パネルに、“インストールされたプログラムは Windows Mobile ソフトウェアの以前のバージョン用に設計されているため、適切に表示されない可能性があります” という警告を抑制できる新しいチェック ボックスが追加されました。以前、.cab ファイルが新しいプラットフォームのみをターゲットしているように見えるとき、警告が抑制されて、BuildMax=0xE0000000 が .inf ファイルの [CEDevice] セクションに追加されました。しかしながら、セットアップ作成者が常に警告を抑制したい場合も考えられるため、BuildMax=0xE0000000 を常に .inf ファイルに追加することができるチェック ボックスが追加されました。

IOC-000045998

DIM を含む InstallShield プロジェクトがビルドされたとき、InstallShield の日本語版でビルド エラー -7115 が発生していた問題は修正されました。

IOC-000045664

Express プロジェクトに .NET 2.0 アセンブリを含めたときに、“ビルド時に .NET をスキャン” 設定を [プロパティのみ] または [依存関係とプロパティ] に設定すると、ProcessorArchitecture アセンブリ プロパティが MsiAssemblyName テーブルにスキャンされます。以前、このプロパティはテーブルにスキャンされませんでした。このため、アセンブリがグローバル アセンブリ キャッシュ (GAC) にインストールされたとき、問題が発生していました。アセンブリも、インストールはされていましたが、アンインストール中 GAC から削除されませんでした。これは、MsiAssemblyName テーブルのプロパティが GAC のアセンブリのプロパティに一致しなかったためです。

IOC-000046326

アドバタイズ ショートカットの [アイコン インデックス] 設定で指定されたアイコンは今回より、正しくインストールされます。

IOC-000046944

.NET Framework 1.0 を Windows XP Tablet PC Edition にインストールしたときに、SP3 適用の試みがあった問題は修正されました (この適用の試みは、SP3 がシステム コンポーネントで、Windows XP Tablet PC Edition SP2 の一部として適用されなければならないため失敗に終わっていました)。

IOC-000047024

プロジェクト出力をプロジェクト アシスタントを使って Visual Studio 2005 Web プロジェクトから追加したときに発生することがあった問題は解決されました。以前は、この操作によりクラッシュすることがありました。

IOC-000047212

今回より、C# .NET Wizard を使用して作成された新規の InstallShield プロジェクトは、指定の Visual Studio 2005 ソリューションに追加されます。

IOC-000047794

[リリースのビルド] ビューの Express ノードに “パッケージ コード” 設定が追加されました。これにより、パッケージ コードを表示したり、必要に応じて新しいパッケージ コードが作成したりできるようになりました。

IOC-000050236

デフォルトで、[アップグレード パス] ビューで作成されたアップグレードは、新しいバージョンの製品をインストールする前に古いバージョンを削除するように構成されています。言い換えると、RemoveExistingProducts アクションが InstallFinalize アクションの前にスケジュールされています。製品が GAC にインストールされているアセンブリを含んでいる場合、このデフォルト シーケンス動作により、アップグレードが適用された後にアセンブリが GAC から消えてしまうという問題が発生する可能性があります。この問題は、Windows Installer の参照カウントがアセンブリに対して適切に実行されないという問題に起因しており、結果的に、アップグレードでアセンブリが削除された後再インストールされないという問題につながっています。

この Windows Installer の問題を回避するために、InstallShield では今回より、新しいバージョンの製品が古いバージョンが削除される前にインストールされるようにプロジェクトを構成することができます。詳しくは、[アップグレード パス] ビューで [アップグレード パス] をクリックしたときに表示されるヘルプ ペインをご覧ください。このペインには、この問題を解決する新しい [RemoveExistingProducts の再シーケンス] ボタンが含まれています。

IOC-000050243

ビルド時に COM データを抽出すると今回より、以下の両方のシナリオにおいて、ProgID が ProgId テーブルに追加されます。(1) CLSID と ProgID がお互いを参照するとき。(2) CLSID は ProgID と参照しないが、ProgID が CLSID を参照するとき。以前、シナリオ 2 は失敗していました。

IOC-000050413

非常に多数のファイル (32,000 ファイル以上) を含むプロジェクトで、ビルド エラー -6651 と -5053 が発生していた問題は今回解決されました。これらのエラーは、IsMsiPkgLarge.itp ファイルが InstallShield インストールから不足していたために発生していました。

IOC-000051104

Microsoft ActiveSync [プログラムの追加と削除] アプリケーションは、今回より、それがモバイル デバイスをターゲットするデータを含む機能をインストールするときのみ起動されません。したがって、モバイル デバイスをターゲットにする機能がインストール、アンインストール

ール、またはアップグレードされる時、ActiveSync が起動されます。以前、Microsoft ActiveSync [プログラムの追加と削除] アプリケーションは、モバイル デバイスをターゲットする機能が選択されていない場合も、インストール、アンインストールまたはアップグレードで常に起動されていました。

[トップに戻る](#)

既知の問題

既知の問題の全リストは、ナレッジベースの記事 [「Q112213」](#) を参照してください。

[トップに戻る](#)